





K939  
314  
(1)



夫、櫻もなせ駒繫ぐ駒がひさめ花が散ると花を傷むる風  
 流男も糸と書肆が需り乗出し中野原野は群馬の  
 嘶まじく拙稿手綱さな腹帯も佳興大坪流の曲乗  
 熟せぬ編輯は過る業と確固盤は取着て危い初編の  
 鞍もまごづり何うやら柏子は乗て来て三編の讀切まで  
 やほまの馳出を趣向い出来たり看客諸君う尻懸  
 へ鞭を當ら且面懸し耻を書き泥障り乗りた御愛  
 顧と力革と夜間為業は金松堂く迫立らとてのをよぐ  
 合せ櫻の様は美しく癸兒冊子の前後錯雜の合巻りの不  
 風流もも固辞付と序文と自ら書と雨り

明治十四年四月午の日

馬車物往来を詠めまゝ  
竹川町の煉瓦室より

彩霞園柳香誌







藤篔群馬嘶第初編上の巻

彩霞園柳香著

一犬吠と吠て萬犬突よ鳴の道理性古より今せよとあるも心  
 身もそれをも智頼蒙の夜と煽動一其拳よ宗と己が  
 不平の積鬱と教むんとするの輩故拳するは違はらざる近  
 へ越後の月岡拳刀の工を他地紀州の四国と重茨城福屋杯  
 の農民暴動よ争ふは由政府よ抗下を不軌と企係の  
 肝愈ありこれ及よとある義民の名よ空一々を身と儀  
 甜よして頼民と割一衆廢と救ふよ動つたる那の依念  
 宗吾の輩はもこれ類る者あるべく近年の一揆暴拳  
 と唱ふるの愈は突よあるとらと其拳同トクハふらハハ  
 謂一犬の壺よ吠る候突よつて人々と鳴くがごとく其愚ヤ

群馬初上



君

















つき氏も困

ト果て入舎

株場終分本仕

立派虫入鏡ら

おれひや

かば防松の辰

のちのち初やふ

ありーふ地租

改正の所一村札の名

名義よのうきとてバ

り維明治十一年

又風

俸二

年俸

王城

後一月那之寺村

のま海級

評と云

此度の海札と

義記を基と

よう澤虫と眼鏡

年



十月のふみん朋を十一

年一月松の辰村の終

速し

組

会の

村の

が枝

より

らぬ

るふ

あふ

従是松澤村那分本場

○ありぬ

あれどもその不平の如い者

村の農民が胸よ秘蔵ん云

さ道と考と集るとこの

朱名

後政

の

判

と

次







群馬 初日



くのもは  
のそありと  
佐とをば  
より大勢の  
之ッ寺村の  
目形をさ  
今度のま  
およ適ぬと  
か活し残る

紅衣よ  
深きけつ  
弛む香  
せしき准  
登とよ  
ふま  
中世

由緒  
十八日の  
掛電上  
早  
百  
人



まろをの松  
皆が腰よち  
ぬい屋裡の  
一月金松の  
沢村のぬふ  
泡とせと股  
と金うとと  
おらわとと  
十月十五日  
十月十五日  
十月十五日

系野へみ人  
十人  
合本の不  
平と  
買一  
よう

千有  
余人の  
人殺と  
あつ路  
あつ腰  
あつ今  
あつ松の  
あつ

羊馬刀上





つぎ 沢村の裏を

腕して歩むがはつと  
とらとあひたる懸の  
まゝくありとも

不効分本  
と儀例

一もまじり

▲怒とばらぬの涙

村の農民等へおどろけ  
備ふ人へ海集あこの

私暴を

はと

二鏡あて防げども元

寡争なり敵意  
き速く被分亦

分の一と代探さど

ありしをさしおけ  
強き原及へ存行出警  
巡査初更号由物張の

久刺さるまど中く  
びた動靜もろく  
被分更を罵しり

只喧ましく  
被分立り

朝鮮  
官 許  
名法  
牛肉丸  
大包代二十五厘  
小包代十二厘五厘

官 許  
天泰丸  
一人せきの茶  
一包代五厘五毫

錦繪 問屋 金松堂 辻岡文助  
日本橋區横山町三丁目二番地

此茶丸は男女老若くも服用し、  
身一ひめとそり人少くも、  
考く持業しは用ひ、  
まじりし、  
合れし、  
打要安へ、  
此天泰丸は、  
そく。らう、  
。まうのん、  
さんどの、  
一切の、  
集しく、



第一編  
 嘶馬群  
 蓆旗  
 箕輪村  
 朝朗  
 榛名山





群馬旗

群馬嘶

群馬嘶 中

周縁画

過去物



群馬旗 群馬嘶 初編巻の中

彩霞園柳香著

中野原河へ集合せし額氏共の警部巡査が制する群馬  
野より退く操出し其輪の賊止字城渡法にて一  
掃へ西明屋村に入り翌十九日の濱川村空道場の本  
掃会に命じて明る廿日と待て松の源村漫地の意  
同ひその返答によつて外と棄て由事となさんと  
發せしく漢靜なる動靜由更なるり一が月が棟宇村  
の縣令後貧志村彪之氏がとの騒ぎと固まらうら  
只檢らうとぬゆりたるあり疲く漢とせざるをた  
大事及びおも知是ざしと心を痛めるおろし

群馬の中







つぎ 命をうととまてらるるお院いひはせに

入て訪る程をまじかまじか

後述お人おととる方かたより

と倦げおて

かみねかみねの

いへいへの

制せいせとせししぬぬ勢せいひひはは止とまますすとといいまますす

ああららままをを出で張はへへまませせりりとと

よよのの女に

をを恐おそ

るる由ゆ多た



女に具ぐ

教き

むむ

るる

もも

まま

けけ

いい

まま

しし

のの

しし

今いま度どのの工く

拳こぶしああるるとといいふふ

施せままをを制せい

止とまますすがが本ほん

意いととああららずず

るるああららずず

されされとと今いま更さら

及およびびりり方かた

今いま日ひままのの

拳こぶし動うご

足あし肥こ

髪かみ

実まこととと察さつままへへ

ののりりのの情じやう

字あざなをを言いふふ

とと顧かへみるるののババ

あありりととああららずず

つつらら不ふ満まんのの多たがが

練ま場ばのの交まじりりとと

顔かほ紫むらさのの一ひと切きりり

ままのの交まじりり

めめをを制せい

ああららままをを

ああららままをを

ああららままをを

ああららままをを

ああららままをを

來迎精舎



つきげよ





君正不...



つま  
承徳  
なる後  
神さ  
をしく  
ハ

おれを  
一統  
さ  
と  
吉

志村  
又  
末



安穩  
右  
代  
松の  
村の  
代

形長  
氏  
を  
縁代

精舎  
松の  
植  
子

羊馬切中

五





書いたの正











有地へ村  
入道の義  
五とくとも  
茅の條  
の如く  
不問の直  
中登り  
但一向後人  
氏雨の地  
へ村入りの義  
突と後ま

控は以降彼若情  
中先たるの義六條今  
圓の費用  
金の互



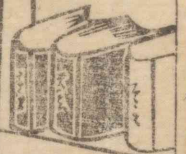
小の茅の條  
旧世分各村  
小松の沢村  
初多末地人及  
降を連  
暑を去に  
如きも金  
入去各村  
代理各村  
きまつた今回  
和解お終ふ  
久の各村

大費とは別  
去用ハその  
所々痛臣  
たる

ベミヨ右和解  
お終ふ久の義是より今日  
ホでの隔と和解一更み  
つた



君用御用



佛法律書



つぎ  
於分本町  
分限を調定の養い  
一和南條の文  
望下を流

△を選挙  
中裁人と兼よ

仍去の

和解の滞縮漸く開き

集合廿 衆民の

女貞強う老澤村

一七二〇年安徳

乃後示後全

之誓ハ

て土月

六月辰辰

見氏も上益

村の宣彦

よ堂と和解定



久松洋の  
中巻くハ  
依之連署  
物件と致  
林場組合  
と上り  
解合保代  
十八人と堂の  
更子熱代中  
より大熱代一名  
美濃の  
戸長徳代一名

林権助及雨又ハ  
地元松の沢村等  
奔走して

△さく秀く堂の

小海されられよう

後妻の掃きを飛せ金取

熱代廿ハと大熱代

由澤

掠

あり

あり

あり

あり

あり

羊馬の口

乙

つ交



君見衣中



高橋河傳夜双譚	八編大尾	藤原群馬嘶	三編大尾
夜嵐阿鬼奴籠通丸鼻	五編大尾	廣澤邊	三編大尾
水錦隅田曙	三編大尾	庚中通夜譚	二編出版
國定忠次義名高橋	五編大尾	板垣君近衣紀聞	三編大尾
腕競心通三俣	三編大尾	娘浄瑠璃傳大寄	三編大尾
緩重衣紋通春秋	三編大尾	川衛天網船	三編大尾
戀相場花玉夜嵐	三編大尾	思案橋天曉奇聞	五編大尾
冬楓月江夕榮	三編大尾	聞多風流西洋床	二編大尾

書肆  
 地本  
 錦繪  
 問屋  
 金春堂  
 辻岡文助



































静と立列よ二人の百姓が  
 夜を渡り焚火の腹り練場  
 騒ぎのを活も 笑入りの  
 毫知らぬ己が情を吐く  
 あつた二人の男は小走りのナントか  
 ぐさ其後の且形が今般集合更  
 か出るまきさ活しを空  
 する知らぬと  
 何且後さうか  
 手置を船等の  
 ぬいよとくお死とくと  
 下さると今般のりも免も角  
 ア系所へ集合と云いやりと

生れ死の二と今月  
 湖を舟のち西月  
 夜村よぬ後川  
 村の屋  
 集る  
 横のふ  
 あつた  
 いふ今  
 生れりか  
 生れを揮  
 口ふ今  
 口果あ  
 て往病息



任やよ今般今  
 猪の林村竹七さる  
 後村の松本泰二  
 さへ作しやるあ何れも  
 今般のてい大勢集あ合て  
 悪のうら巴之で 交殺ひあふ  
 ちて下先倉へ引扱と依ての外の  
 徐一方の何うの沢やらからねど養も  
 大勢押するてまぶくぬるてい出米ぬと福徳  
 村の吉本さんて地活てのお活し由系  
 一統の元で中く動をまあ上  
 八の陸さんと終代不終とせぬ  
 足批四区長の下村さんて終代不終とせぬ

武  
 桂  
 紋  
 喜  
 田  
 其とて  
 其とて  
 其とて  
 其とて









# 彩霞園柳香著

寺村の樓居ととそ

わたりは糸糸のまじり候事不  
 視せし後の柳のまじりよう

わよく松の沢村破約の一新

本年一二年の暴

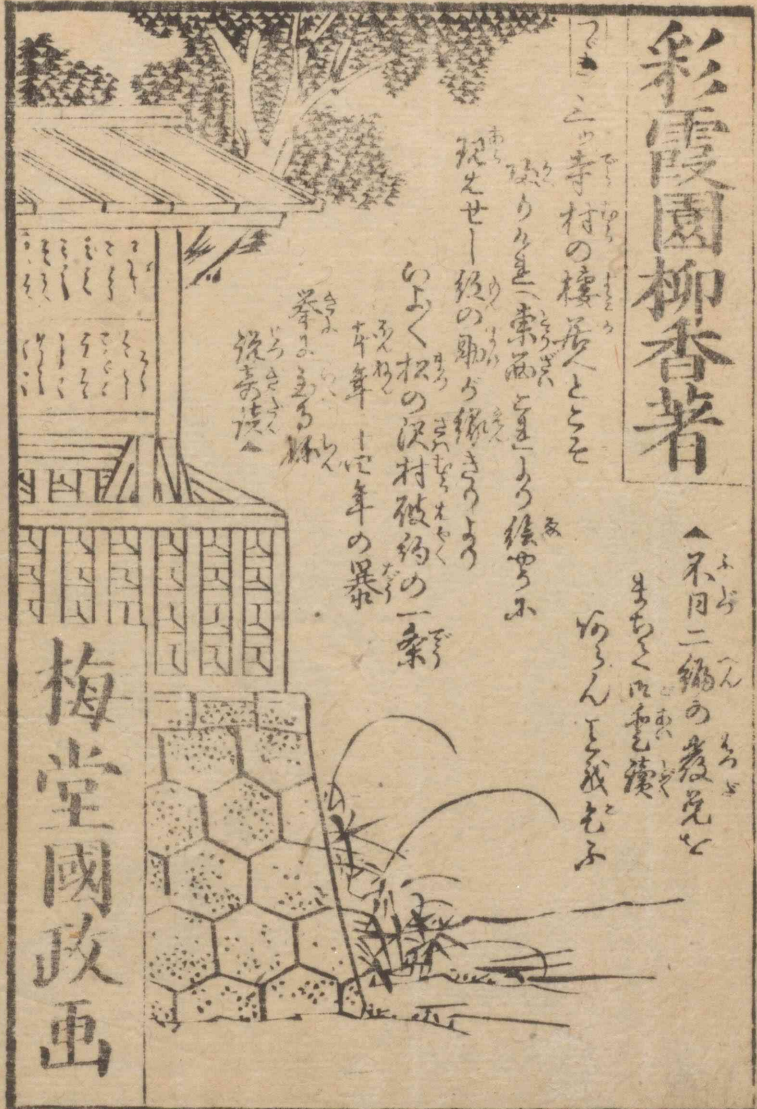
奉まゐる候

後書法

不月二編の夜免と

生れくはを徒

何んとして成るふ



梅堂國政画

高橋阿傳夜双譜 八編大尾 齋藤耕野馬 斯 三編大尾

夜嵐阿鬼奴抱越仇妻 五編大尾 名廣澤達 并 三編大尾

水錦隅田曙 三編大尾 庚申通夜 并 三編大尾

國定忠次義者高嶋 五編大尾 板垣 並 三編大尾

腕競心廻三侯 二編大尾 娘淨瑠璃傳天奇 三編大尾

綾重衣紋廻春秋 三編大尾 川衝天網船 三編大尾

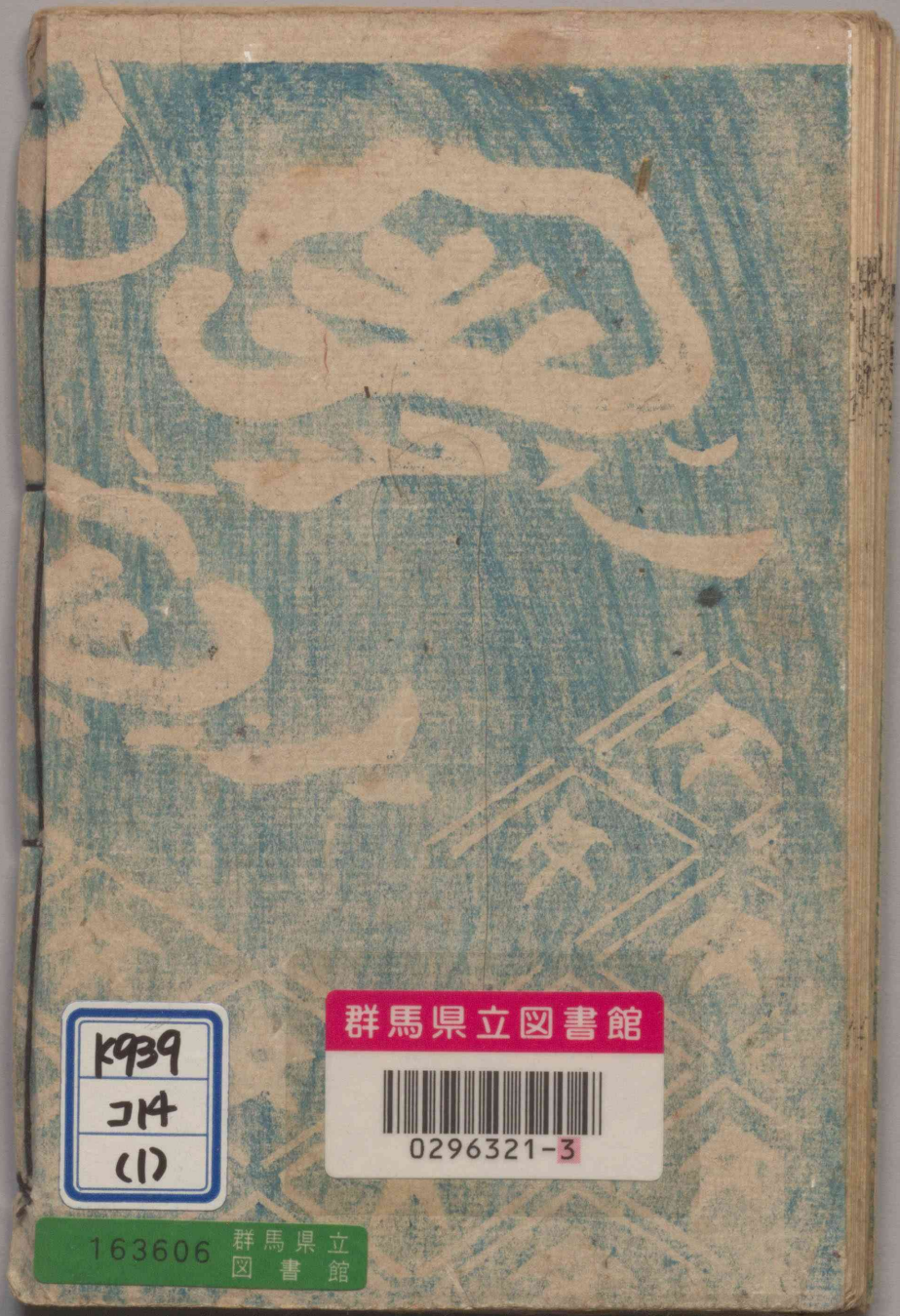
懸相場花王夜嵐 三編大尾 思案橋天曉寺聞 五編大尾

冬楓月は夕榮 二編大尾 開多風流西洋床 二編大尾

文 地本 書肆 錦繪 問屋 金谷堂 東京横山町三丁目 文 閣文







K939
214
(1)

群馬県立図書館



0296321-3

163606

群馬県立  
図書館